

慶応二年七月十二日より慶応二年七月十四日まで

P8310607 right

この達しにより大中寺へ朝第七時半比より、出向の処済海寺へ移りし趣に付、同寺へ至り、和春へ引合、伊太里条約調印並御逢日限等の義、談判有之、夫より出 殿、河内守殿建白夫々治定しその段

和春へ文通およぶ、藤山へ中元賀□小へ右訪病品遣せし旨、内山へ同断（中元）使遣せし処、太郎へ書籍

料として一方差越し助教の謝の趣、番町へ紫茄糠豆等許多を以て中元使遣わせし旨、同方とう児より同断使して驚（あひる）一羽□□為き唐茄等贈り越す同児へ二方（目録）を遣せし旨、須崎より（正覚）

同断蜀黍（トウモロコシ）枝豆且婢共へ汗拭一づつ贈り越す旨、須崎（常）来り、柳亭とは紛紜咄敷（か）帰りし旨

右に付一書□し置、金井（源）来り、石川（善一郎）願の筋の義に付一書を□帰りし旨、藤山稽古に来りし旨

十三日 巳 雨断続

井田（宗）初て来り面す（中等）富沢叔母中元賀に来り、鶏卵一□菓子折を贈る、久左並松浪ふく

P8310607 left

婢共銘々へ手拭膏元結半紙等贈る、松浪ふく同断来り蒸菓子（金玉糖）一折を贈る

小品を酬いし旨、出 殿、談番午下第四時より河内守殿御宅にて英パークス御逢有之、縫殿頭殿、玄蕃殿御列席、右へ相廻り本第九時過帰宅、礫門より中元賀使菓子折並び目録等贈り越旨、医道玄来る、過日製氷器貸し遣せし謝として蒸菓子一折持参の旨、隣家安部より頼□直酒

一壘贈り来り近日参る旨也、積雪棚を架し庭療の役あり

十四日 午 雨意午下漸に晴

安部へこの返書遣し、洋婦画一枚を酬う、富沢へ中元使遣わす、紫ゴロー袱地一方添婢分とも為持遣す

松盛齋へ花挿瓶を返し美濃紙五帖中元賀に遣す、鈴木正作目見に来る太郎へ洋学校□兼中小姓抱入の積り談し遣す、□田（三）来る、懸転の促し也、出 殿、退出薄暮に至る

（内は細字双行（二行に小さい文字で二行書き）などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。